

基本対策方針フロー

重点対策箇所（40施設※）

※「重大事故発生箇所」・「複数回発生箇所」・「平面交差構造箇所」に重複する箇所がある

重大事故発生（11施設）・複数回逆走発生（11施設）

平面交差構造
（18施設）

逆走開始地点別分類

逆走パターンⅠ

本線合流部での
逆走開始

逆走パターンⅡ

SA/PA入口部
からの逆走開始

逆走パターンⅢ

一般道接続部
からの逆走開始

逆走パターンⅣ

ランプ上・
料金所前後
での逆走開始

逆走パターンⅤ

平面交差点部
での逆走開始

次ページ以降に、各パターンにおける代表的な対策例を示す

※実際に採用する対策は現地状況等によって異なる

I. 本線合流部での逆走開始

本線合流部付近で、Uターンして誤進入する車両に対して、事前に注意喚起・逆走開始後に気づかせるための対策を実施。

代表的な対策例

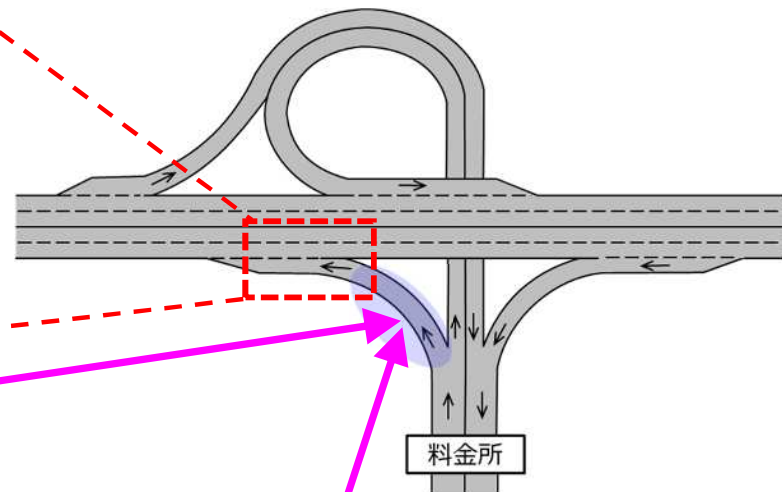
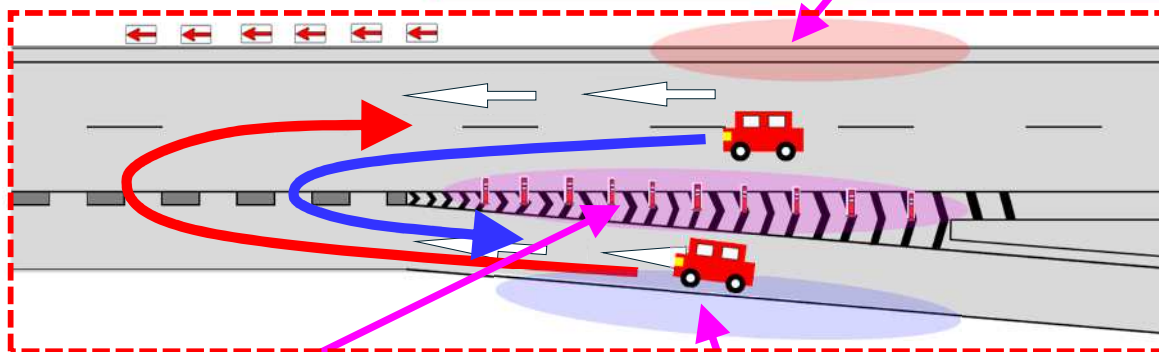


【防眩板応用注意喚起】

本線上での正面衝突を防ぐため、
本線上を逆走したら気づかせる
注意喚起を中央分離帯に設置

ランプ→本線逆走のパターンに対して設置

  : 逆走車両経路



【ラバーポールウイングサイン】

合流部でのUターンを防ぐため、
進行方向を明示するラバーポールウイングサインを設置



【プレッシャーウォール】

ランプに誤って進入した車両に対し、
逆走に気づかせるプレッシャーウォールを流入ランプに設置

本線→ランプ逆走の
パターンに対して設置



【ウェッジハンプ】

本線流入ランプに誤って進入した車両に対し、
衝撃を与えることで、視覚的対策と
合わせて逆走に気づかせる物理的対策を、
流入ランプに設置

本線→ランプ逆走の
パターンに対して設置

Ⅱ. SA/PA入口部からの逆走開始

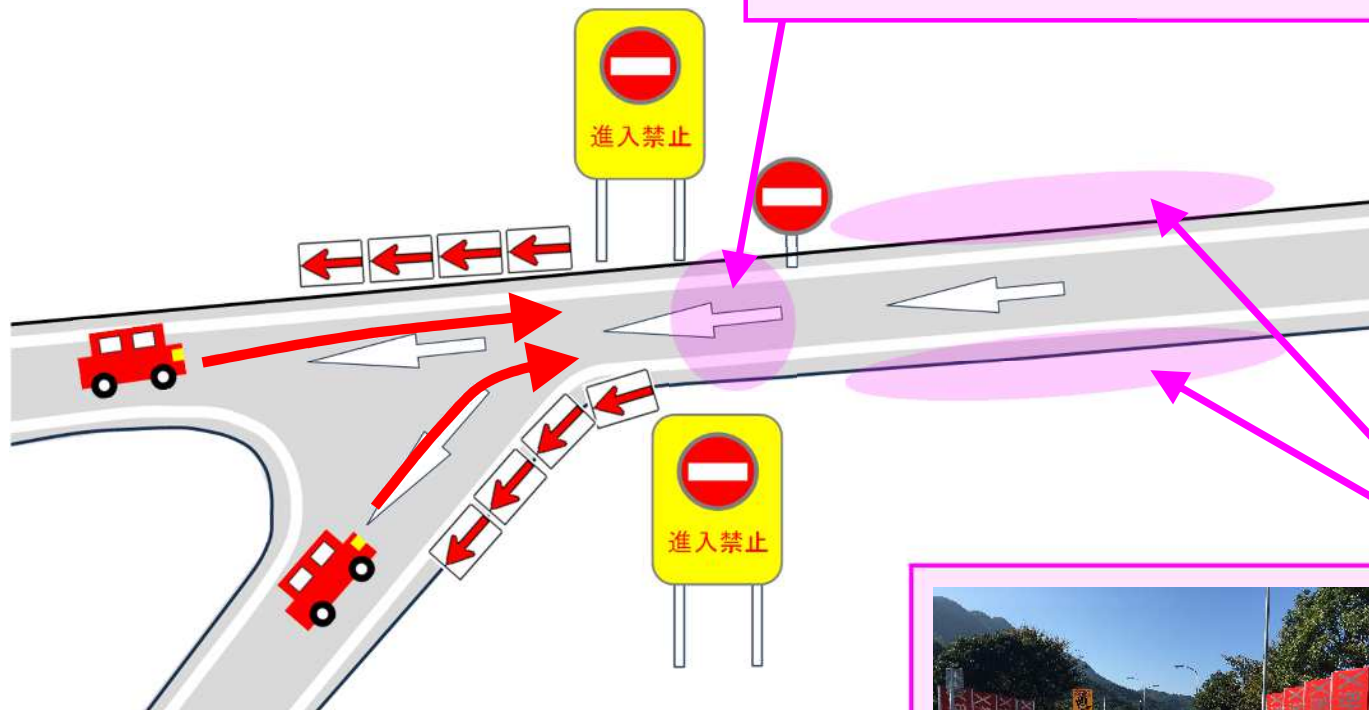
SA/PA内から誤ってSA/PAへの流入ランプに進入した際に、逆走に気づかせるための対策を実施。

代表的な対策例



【路面埋込型ブレード】

SA/PA入口部に誤って進入した車両に対し、衝撃を与えることで、視覚的対策と合わせて逆走に気づかせる物理的対策を、入口部に設置



→：逆走車両経路



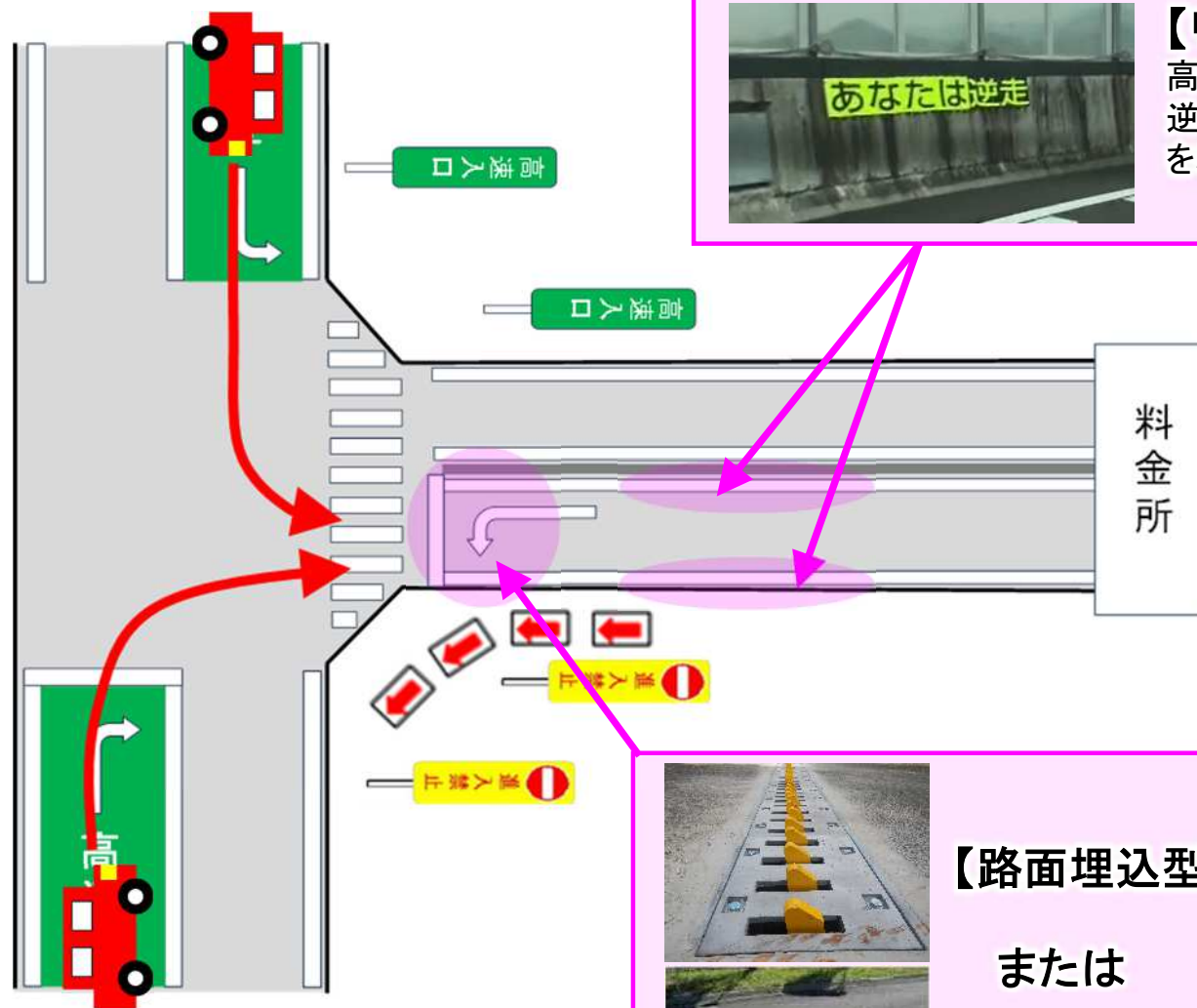
【プレッシャーウォール】

SA/PA入口部に誤って進入した車両に対し、逆走に気づかせるプレッシャーウォールを流出ランプに設置

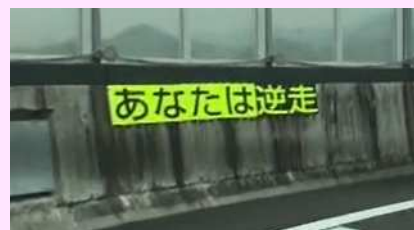
Ⅲ. 一般道接続部からの逆走開始

一般道から誤って高速道路出口に進入した際に、逆走に気づかせるための対策を実施。

代表的な対策例



→：逆走車両経路



【リバーシブル注意喚起板】

高速道路出口に誤って進入した車両に対し、逆走に気づかせるリバーシブル注意喚起板を料金所から一般道接続部間に設置



【路面埋込型ブレード】

または

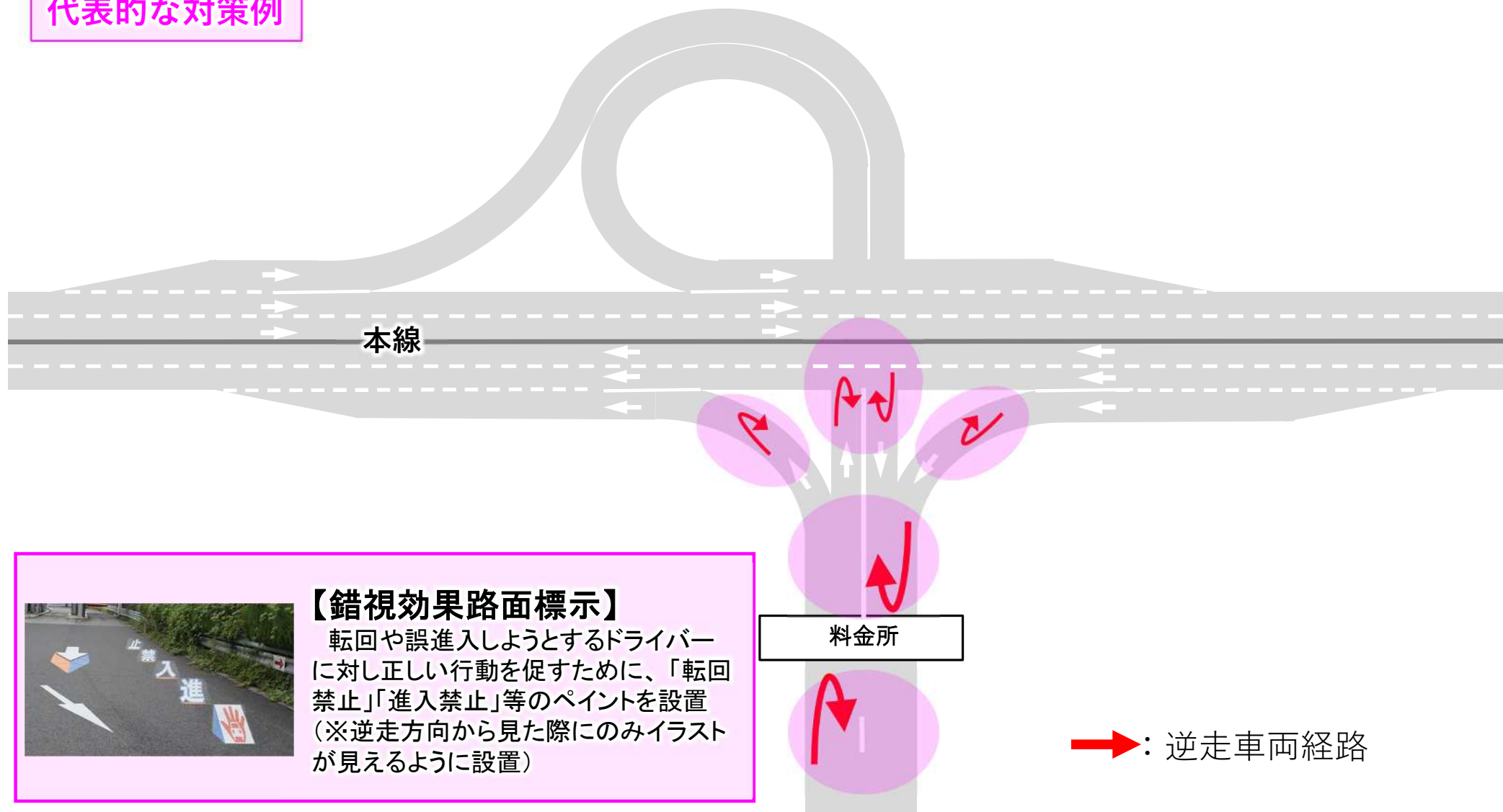
【ウェッジハンプ】

高速道路出口に誤って進入した車両に対し、衝撃を与えることで、視覚的対策と合わせて逆走に気づかせる物理的対策を設置

IV. ランプ上・料金所前後での逆走開始

本線から降りるICを誤ったり、意図せず一般道から高速道路に入ってしまった場合にUターンして逆走する事案に対し、転回禁止や進入禁止を注意喚起する対策を実施。

代表的な対策例



V. 平面交差点部での逆走開始

平面交差点部から誤って本線流出ランプに進入した際に、逆走に気づかせるための対策を実施。

代表的な対策例



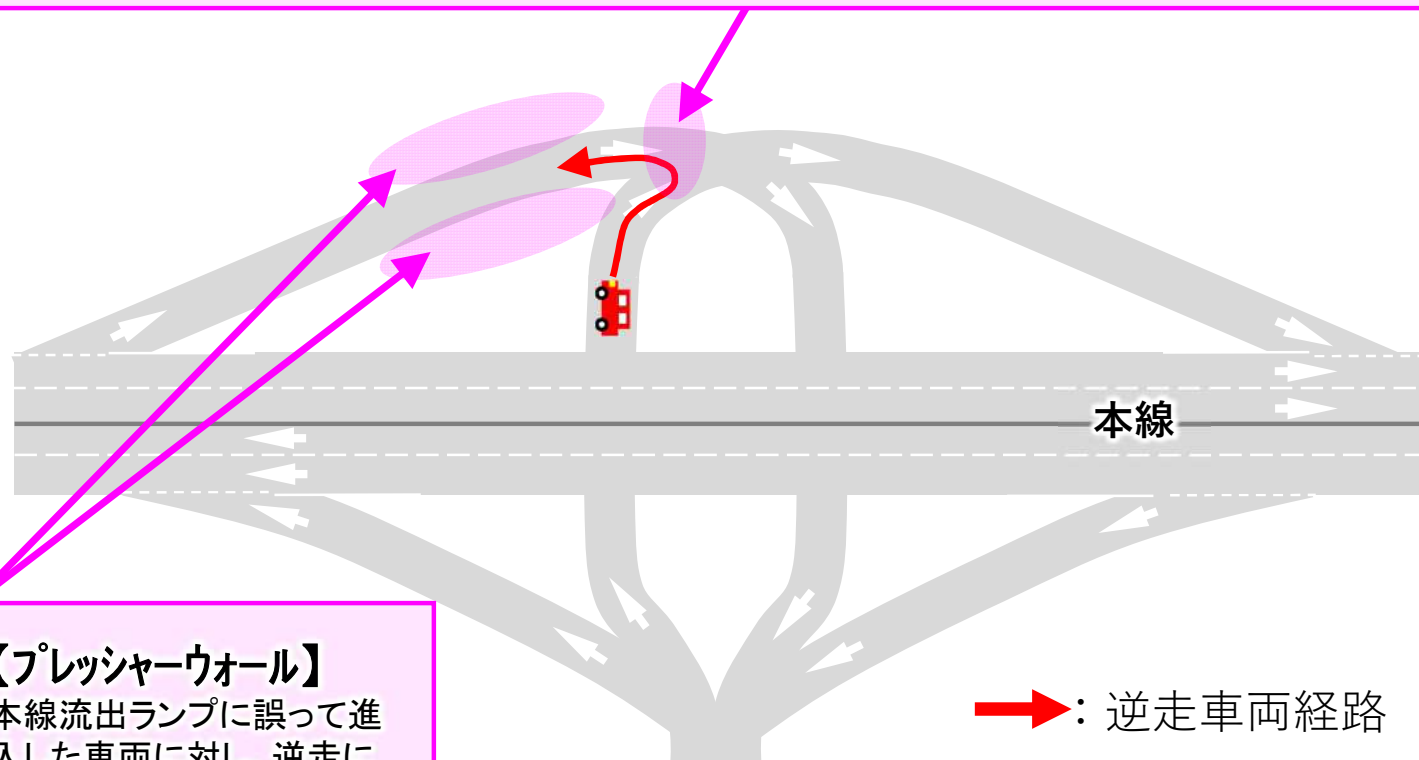
【路面埋込型ブレード】

本線流出ランプに誤って進入した車両に対し、衝撃を与えることで、視覚的対策と合わせて逆走に気づかせる物理的対策を、平面交差点部近傍に設置



【プレッシャーウォール】

本線流出ランプに誤って進入した車両に対し、逆走に気づかせるプレッシャーウォールを設置



→：逆走車両経路